

[成果情報名] ルクリア (アッサムニオイザクラ) に発生する枝枯病 (新病害)

[要約] ルクリア (アッサムニオイザクラ) の枝や樹幹部が褐変・枯死する症状は、ホーマ (*Phoma*) 菌による病害であり、ルクリア枝枯病 (仮称) とした。

[担当] 山梨県総合農業技術センター・環境部・舟久保太一

[分類] 技術・参考

[課題の要請元]

総合農業技術センター農業技術普及部

[背景・ねらい]

県内のルクリア (アッサムニオイザクラ) 生産現場において、枝や樹幹部が褐変・枯死する症状が発生し問題となっている。そこで、その原因について解明する。

[成果の内容・特徴]

- 1 . 症状は、枝や樹幹部が褐変・枯死する。葉には発生しない。はじめ水浸状に褐変し、新梢先端部では枯死に至る。枝や樹幹部は褐変し、病斑部がくぼんだりくびれたりする。また、病斑上に小黑点 (分生子殻 : 大量の胞子を含む殻) を多数形成する場合がある。(図 1、図 2、図 3)
- 2 . 主に 4 月中下旬より発生が見られ、6~7 月の梅雨期に多発する。その後発生は減少する。なお、3 月のさし木の時点で樹幹部に発生する場合もある。
- 3 . 褐変した部位からホーマ菌 (糸状菌) が分離され、接種試験により同様の症状を再現したことから、本菌による病害である。(データ略)
- 4 . ルクリアにおいてホーマ菌 (*Phoma exigua*) による病害は報告がないため、新しい病名「ルクリア枝枯病 (仮称) 」と命名した。
- 5 . さし木 (3 月) の各部位から菌を分離した結果、ピンチ痕や樹幹部からホーマ菌が分離された (表 1)。また、ピンチ痕上には分生子殻の形成が多く見られた (図 4)。

[成果の活用上の留意点]

- 1 . ホーマ菌は多湿を好むため、ハウス内の換気に努める。また、株間の通気性を確保するよう努める。
- 2 . 上部かん水は発生を拡大させるため、可能な限り植物体に水がかからないよう努める。
- 3 . 発症株や発症枝は伝染源になるため、速やかに撤去し処分する。
- 4 . 本病の病名については、日本植物病理学会に提案中である。

[期待される効果]

- 1 . ルクリア (アッサムニオイザクラ) 枝枯れ症状の原因が解明されることで、防除対策の確立が可能となる。

[具体的データ]



図 1 枝の枯死



図 2 ピンチ両側枝の褐変・へこみ

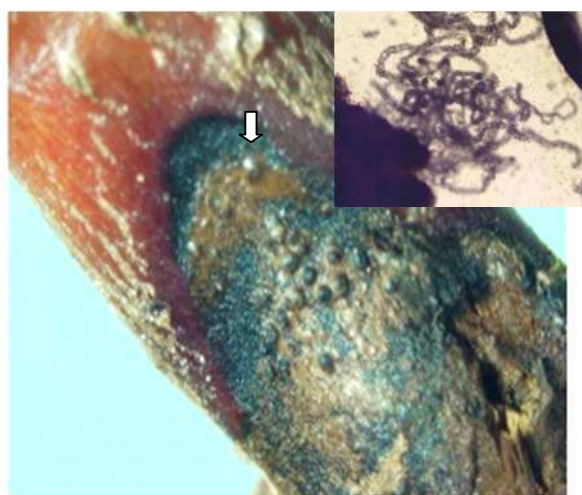


図 3 病斑上の小黑点（分生子殻）
と胞子の噴出（右上）



図 4 ピンチ痕上に形成された分生子殻

表 1 さし木の各部位からの菌の分離頻度

分離部位	分離菌株数 / 調査数	分離頻度 %
ピンチ痕	11 / 20	55
樹幹部	6 / 20	30
葉	0 / 20	0
新芽	0 / 20	0

[その他]

研究課題名：アッサムニオイザクラ異常葉等の原因究明と対策

予算区分：県単（重点化）

研究期間：2011～2013 年度

研究担当者：舟久保太一、横内京子、國友義博